

第二章 武蔵野市の広報媒体評価

I 市報むさしの

吉村 潔 委員

市報「市報むさしの」の評価対象は、2008年1月1日号から4月1日号までの7号分である。全体を閲読した後、下記の評価項目について、5点満点で評価するとともに、それぞれの項目の良い点、悪い点についてコメントを付した。

【評価結果一覧】

評価項目		評価
1 企画・構成	(1) 全体企画・構成	3
	(2) 特集記事	3
	(3) 行政記事	3.5
	(4) 暮らしの記事	3
	(5) その他の記事	3
2 文章・表記	(1) 文章	3.5
	(2) 表記	3.5
	(3) 見出し	4
3 デザイン・レイアウト	(1) 全体デザイン・レイアウト	3
	(2) 表紙	3
4 その他	(1) メディアミックス	3
	(2) 発行形態	3.5

※メディアミックス：同じ広報テーマをさまざまな媒体で展開する広報

1 企画・構成

(1) 全体企画・構成

【評価3】

評価ポイント①

行政が伝えたい情報、市民が知りたい情報が掲載されている
→必要にして十分な情報（質・量ともに）が提供されている etc

◇情報量が多いと思うが、とにかくどのページをめくっても文字情報が多すぎるため、読む気をそそらない。

◇新年号のようなページ構成を、年間を通じて展開するくらいでないと、なかなか読んでもらえないのではないだろうか。

評価ポイント②

情報の分類・整理（台割り、ページ構成等）がされている
→市民（読者）サイドの視点で情報がまとめられている etc

◇「市政ニュース」「催し」などの分類が、何を基準になされているのかが、把握しづらい。

- ◇市政ニュースは市政に関するトピックスもあれば、「お知らせ」「イベント」「呼びかけ」もあり、内容を整理し、情報の検索性を高めるようにしたい。
- ◇特集は後半ではなく、前のほうか、せめて真ん中辺りに配置したい。

評価ポイント③

情報の内容がタイムリーである

→発行時期、発行頻度に合った情報が掲載されている etc

- ◇一面も含め、そうした配慮はなされている。

評価ポイント④

テキスト情報だけでなくビジュアル情報も掲載されている

→必要に応じて写真、図表、イラストなどが効果的に使われている etc

- ◇全体を平均すると、テキストとビジュアルがそれぞれ50%くらいの割合が望ましい。武蔵野市の場合、情報量が多いから無理としても、せめてビジュアル情報を全体の30%くらいまで引き上げたい。
- ◇必ずしも写真やイラストということではなく、内容を分かりやすく解説したチャート類などもビジュアル情報としてとらえてほしい。

評価ポイント⑤

市民参加型（双方向型）の要素がある

→市民とのコミュニケーション、広聴的要素がある etc

- ◇人口の多い自治体の広報紙は「お知らせ」一辺倒になりがちだが、市政をきちんと知らせることを中心に、例えば2分の1ページでも市民の顔が見える広報紙にしたい。

(2) 特集記事（一面と後半にある「特集」を一括して）

【評価3】

評価ポイント①

適切なテーマである

→地域性、社会性、話題性のあるテーマが取り上げられている etc

- ◇掲載されたテーマは必要なことだと思えるが、一面と後半の「特集」を差別化し、一面は行政から伝えたい最新情報、「特集」は隔月でも市民生活に身近な問題（子育て、福祉、教育、高齢化社会の生きがい、家族、その他）を取り上げてみてはどうか。

評価ポイント②

多角的、多面的な構成になっている

→解説、インタビュー、Q&A、データ、ビジュアル情報など、さまざまな記事形態による編集がされている etc

- ◇3月15日号の予算特集のようなページづくりを他の号でも意識すれば、紙面の印象はかなり変わってくると思われる。

評価ポイント③

行政の視点、市民の視点のバランスのとれた企画・構成になっている
→一方的な論調ではなく、問題共有型の配慮、編集がされている etc

◇「まちづくり」「環境」「納税」「イベント参加への誘い」など、すべて行政サイドの情報発信というイメージが濃く感じられる。

(3) 行政記事

【評価3.5】

評価ポイント

税・福祉・環境などの施策関連情報が、タイムリーに分かりやすく掲載されている

◇行政記事は盛り込まれているが、2ページ以降の紙面のメリハリを工夫しないと、活字の羅列に見えてしまう。

(4) 暮らしの記事

【評価3】

評価ポイント

生活情報、イベント情報などが、タイムリーに分かりやすく掲載されている

◇子ども向けの情報が、行政寄りの情報と日常生活関連と分かれているのは分かるが、タイトルやアイコンも同じで、ページが飛んで掲載されていることに違和感がある。

(5) その他の記事

【評価3】

評価ポイント①

地域特性等に応じた独自の記事がある
→地域の歴史や文化、自然等に関連した連載やコラムがある etc

◇途中で目を休めるようなページがない。

◇季刊誌との役割分担もあるだろうが、「コミュニティ・レポート」だけでなく、記事の多様性がほしい。

評価ポイント②

エンターテインメント性がある
→クイズやマンガ、料理記事、人物紹介記事などがある etc

◇必ず必要かどうかは意見が分かれると思うが、地域の資源を発掘するようなシリーズ企画など、行政広報紙だからできる企画を考えたい。

2 文章・表記

(1) 文章

【評価 3.5】

評価ポイント①

分かりやすい文章である

→内部資料をそのまま掲載するのではなく、市民向けにリライトするなど、低年齢層でも理解できる文章になっている etc

- ◇できるだけ、分かりやすく表現しようと配慮していることが伝わってくる。
- ◇全体としてみると生硬な表現も見られ、短文化もさらに意識するようにしたい。
- ◇2月15日号の市議会のWeb生中継に関しても、肝心の日程や時間が小さく掲載され、見出しで済むことが本文の半分近くを占めている。これからは、テキスト情報の在り方も再検討してほしい。

評価ポイント②

分かりやすい解説や説明がされている

→専門用語などに注釈が付いていたり、かみくだいた表現に置き換えられたりしている etc

- ◇分かりにくい事柄や専門用語は注記がついている。ほとんどの市民が分かりやすく読めるのではないか。

(2) 表記

【評価 3.5】

評価ポイント

正しい用字用語が使われている

→常用漢字以外の漢字を使っていない、ルビを振っている、表記が統一されている etc

- ◇ほぼクリアされていると思う。
- ◇「一層の整備を図っていきます」的な表現は、できるだけ避けるようにしたい。

(3) 見出し

【評価 4】

評価ポイント

適切な見出しが付いている

→記事の案内役を果たす見出しやタイトルがきちんと付けられている etc

- ◇話体の呼びかけ表現で、上手くまとめてある。ただし、見出しは、できるだけ具体的にし、読み手に引き寄せた言葉を選ぶようにしたい。

(現状) 「市民参加による快適なみちづくりを進めています」1月15日号

(改善例) 「末広通りで、景観や安全・安心に配慮した道づくりを進めています」

3 デザイン・レイアウト

(1) 全体デザイン・レイアウト

【評価3】

評価ポイント①

読みやすい

→高齢者にも可読性のいい文字組みになっている

→見出しの書体や大きさが工夫されている etc

◇高齢者に配慮し、文字はできるだけ大きくしてあるが、1行の文字数が多く、行間が狭い文字組みが多いため、必ずしも読みやすいとはいえない。

◇見出しは比較的目に入ってくる。

評価ポイント②

見やすい

→分かりやすく整理されたレイアウトである

→紙面全体のデザイン・テイストが統一されている etc

◇もう少し情報を整理することと、紙面のメリハリをつけることの二点を意識すれば、かなり紙面が変わってくる。

評価ポイント③

きれい

→ビジュアル情報（写真や図表、イラスト、マップなど）のクオリティーが高い

→カラーを上手に使っている etc

◇最初から最後までほぼ同じデザインフォーマットなので、どのページを開いても同じような情報が掲載されているように感じてしまう。全体の統一感と変化が大切。

(2) 表紙

【評価3】

評価ポイント①

読者を引き付けるトップページになっている

→一目で内容が分かるデザインになっている

→ビジュアル情報やコピー等にインパクトがある etc

◇全体的に、印象が薄い。それは、表紙を見たとき、イメージを喚起するものがないためである。

◇表紙は、簡潔で目をひくタイトルとリード文を配置し、写真を中心に、文章は写真ネームのみで構成するくらいの気持ちでまとめてみたい。

評価ポイント②

タイトル周りが整理されている、デザインがいい

→タイトル・ロゴや関連情報（発行年月、人口・世帯数、目次等）がバランスよく配置されている etc

◇タイトル・ロゴにもう少し、表情と個性を持たせたい。

4 その他

(1) メディアミックス

【評価3】

評価ポイント

他の媒体との連動性がある

→ホームページ等への誘導やメディアミックスがある etc

◇お知らせなどでURLは掲載されているが、広報紙（紙媒体）でホームページの閲覧を高めるようなPRをより積極的に行いたい。

(2) 発行形態

【評価3.5】

評価ポイント

発行形態が適切である

→発行頻度、仕様（判型、紙質等）、編集体制などが妥当である

◇1日号と15日号の役割分担を明確化し、もっと掲載情報の差別化を図ってもいいのではないかな。

5 リニューアルに向けた方向性の提案

- ◇「お知らせする情報が多過ぎ、各部署からの情報整理だけで大変」という状態を繰り返していると、変わりようがないので、どこかで思い切りが必要である。
- ◇丁寧にまとめ、配れば読んでくれるという発想ではなく、「自分が読者として、本当に読む気になるか」を出発点に広報紙の在り方を見直したい。
- ◇商業誌のまねをする必要はないが、コミュニケーション力のある紙面づくりは不可欠である。
- ◇行政からきちんと伝えたいこと、「お知らせ」のように機能的にまとめるページなどのメリハリをつけることも大切。
- ◇ページをめくりたくなる一例として、東京都品川区の「広報しながわ」2008年7月21日号（ホームページで閲覧可能）を参考に。

II 季刊むさしの

吉村 潔 委員

季刊誌「季刊むさしの」の評価対象は、2007年夏号～2008年春号の4号分である。全体を閲読した後、下記の評価項目について、5点満点で評価するとともに、それぞれの項目の良い点、悪い点についてコメントを付した。

【評価結果一覧】

評価項目		評価
1 企画・構成	(1) 全体企画・構成	3.5
	(2) 特集記事	3.5
	(3) 行政記事	3.5
	(4) 暮らしの記事	3
	(5) その他の記事	4
2 文章・表記	(1) 文章	4
	(2) 表記	3.5
	(3) 見出し	3.5
3 デザイン・レイアウト	(1) 全体デザイン・レイアウト	3
	(2) 表紙	3
4 その他	(1) メディアミックス	3
	(2) 発行形態	4

1 企画・構成

(1) 全体企画・構成

【評価3.5】

評価ポイント①

行政が伝えたい情報、市民が知りたい情報が掲載されている
→必要にして十分な情報（質・量ともに）が提供されている etc

◇「市報」とは違う観点で編集され、地域の表情が浮かび上がっている。

評価ポイント②

情報の分類・整理（台割り、ページ構成等）がされている
→市民（読者）サイドの視点で情報がまとめられている etc

◇市報よりも整理されているが、文章量が多いことに変わりなく、全体の流れにもう少し、抑揚がほしい。

評価ポイント③

情報の内容がタイムリーである

→発行時期、発行頻度に合った情報が掲載されている etc

◇季節の話題なども取り上げられているが、例えば、夏号の「緑に親しもう」はごく一般的な内容で、季節テーマとして取り上げる切り口や掘り下げを導入したい。

評価ポイント④

テキスト情報だけでなくビジュアル情報も掲載されている

→必要に応じて写真、図表、イラストなどが効果的に使われている etc

◇市報よりもビジュアル化されているものの、まだ中途半端な面も感じられる。

◇余白の使い方、写真の大小、アングル等を工夫すれば、さらに良くなるだろう。

評価ポイント⑤

市民参加型（双方向型）の要素がある

→市民とのコミュニケーション、広聴的要素がある etc

◇「チャレンジ武蔵野人」「市民の“WA”」「武蔵野ジャーナル」「武蔵野文芸」など、市民が登場するページが充実している。

(2) 特集記事

【評価3.5】

評価ポイント①

適切なテーマである

→地域性、社会性、話題性のあるテーマが取り上げられている etc

◇予算、ごみ問題、心の問題など、市報との兼ね合い、位置づけをどう考えるか。

◇心の問題、ひきこもり支援などは、身近なテーマでもあり、社会全体の問題としてももう少しページを割いても良かったような気がする。

評価ポイント②

多角的、多面的な構成になっている

→解説、インタビュー、Q&A、データ、ビジュアル情報など、さまざまな記事形態による編集がされている etc

◇ごみ問題などは構成が複眼的だが、レイアウトのまとまりを意識すると、もっと連続性を感じるページになったような気がする。

評価ポイント③

行政の視点、市民の視点のバランスのとれた企画・構成になっている

→一方的な論調ではなく、問題共有型の配慮、編集がされている etc

◇市民が多数登場しているという意味では、読者参加型の紙面になっているが、「読者視点」という観点では考える余地が残されている。

(3) 行政記事

【評価3.5】

評価ポイント

税・福祉・環境などの施策関連情報が、タイムリーに分かりやすく掲載されている

- ◇「業務探検隊が行く！」は好企画で、「TOPICS」も比較的良くまとまっている。
- ◇行政からのお知らせという意味で、「後期高齢者医療制度」「特定検診・特定保健指導」などはイラストなどを交え、もっと視覚的に解説すべきでは。今のままでは分かりにくく、内容が伝わらないのではないだろうか。

(4) 暮らしの記事

【評価3】

評価ポイント

生活情報、イベント情報などが、タイムリーに分かりやすく掲載されている

- ◇春号の「Musashinoごちそうフェスタを開催！」などは、市政と市民の暮らしが交差する楽しい紙面になっている。

(5) その他の記事

【評価4】

評価ポイント①

地域特性等に応じた独自の記事がある
→地域の歴史や文化、自然等に関連した連載やコラムがある etc

- ◇「チャレンジ武蔵野人」は、文章ものびのびして読む気になる。「市民の“WA”」や「むさしの街人夢」も、行政広報紙らしい切り口がきている。

評価ポイント②

エンターテインメント性がある
→クイズやマンガ、料理記事、人物紹介記事などがある etc

- ◇「お散歩三昧」はイラストも楽しく、きちんとした情報にもなっている点がいい。

2 文章・表記

(1) 文章

【評価4】

評価ポイント①

分かりやすい文章である
→内部資料をそのまま掲載するのではなく、市民向けにリライトするなど、低年齢層でも理解できる文章になっている etc

- ◇内容的にもそうだが、市報よりも肩の力が抜けている分、読みやすくなっているように感じる。
- ◇全体的に「書き過ぎ」の感がある。
- ◇記事にもよるが、全体的にもっと改行を増やしたい。

評価ポイント②

分かりやすい解説や説明がされている

→専門用語などに注釈が付いていたり、かみくだいた表現に置き換えられたりしている etc

◇特に問題ない。

(2) 表記

【評価 3.5】

評価ポイント

正しい用字用語が使われている

→常用漢字以外の漢字を使っていない、ルビを振っている、表記が統一されている etc

◇漢字、平仮名などのバランスも悪くない。

◇一部の記事で、普段、言葉として使わない「～を図る」といった表現が見られるので、注意するよう
にしたい。

(3) 見出し

【評価 3.5】

評価ポイント

適切な見出しが付いている

→記事の案内役を果たす見出しやタイトルがきちんと付けられている etc

◇硬い表現が残っている。

◇「平成20年度予算と施策」「こころのサポートと～充実を図ります」といったタイトル、見出しに工
夫を加えてほしい。

3 デザイン・レイアウト

(1) 全体デザイン・レイアウト

【評価 3】

評価ポイント①

読みやすい

→高齢者にも可読性のいい文字組みになっている

→見出しの書体や大きさが工夫されている etc

◇可読性に大きな問題はないが、紙面の活字密度が高い。

◇全ページでなくてもよいので、余白を効果的に使った、インパクトとゆとりのあるページを設けたい。

評価ポイント②

見やすい

→分かりやすく整理されたレイアウトである

→紙面全体のデザイン・テイストが統一されている etc

◇全体として「TOPICS」のページのレイアウトを基本に、バリエーションをもたせるようにしたい。

◇「こぼればなし」「チャレンジ武蔵野人」などは詰め込み過ぎである。

評価ポイント③

きれい

→ビジュアル情報（写真や図表、イラスト、マップなど）のクオリティーが高い

→カラーを上手に使っている etc

◇レイアウトのまとまりがほしい。

◇目を引くタイトルデザイン、写真の大きさのメリハリ、角判、キリヌキのバリエーション、余白の使い方など、トータルなアートディレクションを導入し、紙面を設計したい。

（２）表紙

【評価 3】

評価ポイント①

読者を引き付けるトップページになっている

→一目で内容が分かるデザインになっている

→ビジュアル情報やコピー等にインパクトがある etc

◇郷愁を誘う表紙。

◇地元の人に依頼するというのも一つの方法でいい。

評価ポイント②

タイトル周りが整理されている、デザインがいい

→タイトル・ロゴや関連情報（発行年月、人口・世帯数、目次等）がバランスよく配置されている etc

◇タイトル・ロゴが少し弱いような印象を持った。

◇字間も離れていてやさしい書体だが、もう少し、動きを感じるデザインにしてはどうだろう。

4 その他

（１）メディアミックス

【評価 3】

評価ポイント

他の媒体との連動性がある

→ホームページ等への誘導やメディアミックスがある etc

◇市報同様、毎回、話題のコンテンツ等を紹介し、ホームページへ誘導するフックとなるような仕掛けを設けたい。

（２）発行形態

【評価 4】

評価ポイント

発行形態が適切である

→発行頻度、仕様（判型、紙質等）、編集体制などが妥当である

◇こうした、季節を感じる広報メディアがあつていいと思う。

5 リニューアルに向けた方向性の提案

- ◇市報との役割分担、位置づけをもっと明確にしたい。現状は、地方自治体が制作している広報紙の内容に近いように思われる。
- ◇吉祥寺を擁する東京・武蔵野市の活気、文化度、人間力などが伝わってくるような企画、紙面づくりも一つの方向性になるような気がする。
- ◇全体的には、レイアウトが記事やページでバラバラに見えるので、全体の紙面設計を行い、統一感と変化のあるデザインを意識したい。
- ◇読者対象を特定できないにしても、「こんな人たちに読んでもらいたい」というイメージを持ち、広報紙の方向性を検討することも試してほしい。
- ◇答えは一つではないので、トライアル&エラー（試行錯誤）の継続を。

Ⅲ こどもむさしの

吉村 潔 委員

子ども広報「こどもむさしの」の評価対象は、47号～49号の3号分である。全体を閲読した後、下記の評価項目について、5点満点で評価するとともに、それぞれの項目の良い点、悪い点についてコメントを付した。

【評価結果一覧】

評価項目		評価
1 企画・構成	(1) 全体企画・構成	2.5
	(2) 行政記事	3
	(3) 暮らしの記事	3
	(4) その他の記事	3
2 文章・表記	(1) 文章、見出し	3.5
	(2) 表記	4
3 デザイン・レイアウト	(1) 全体デザイン・レイアウト	3
	(2) 表紙	3
4 その他	(1) メディアミックス	3
	(2) 発行形態	3

1 企画・構成

(1) 全体企画・構成

【評価 2.5】

評価ポイント①

行政が伝えたい情報、子どもが知りたい情報が掲載されている
→必要にして十分な情報（質・量ともに）が提供されている etc

- ◇ページ数が少ないためか、「あれも、これも」と網羅主義になっているような気がする。
- ◇少なくとも中面の2ページは、「環境」「資源」「福祉」といった現代の諸問題を縦糸に、武蔵野市という地域性を横糸に、テーマを絞り、総合的学習の時間で子どもたちの討論につなげるような問題を取り上げるようにしたい。もちろん、紙面上で答えを出す必要はないと思うが。例えば、夏号の「武蔵野のおいしい水」をふくらませたような企画はどうか。

評価ポイント②

情報の分類・整理（台割り、ページ構成等）がされている
→子ども（読者）サイドの視点で情報がまとめられている etc

- ◇100%子ども（読者）サイドの視点でまとめる必要はないと思うが、「武蔵野の「春」を楽しもう！」といった企画は、子どもたちにとってどれだけリアリティがあるかどうか疑問。
- ◇表彰された子どもたちを紹介するコーナーは、すでに学校などでも取り上げられていると思うので、別の観点からアプローチしたほうがいいと思う。

評価ポイント③

情報の内容がタイムリーである

→発行時期、発行頻度に合った情報が掲載されている etc

◇特に問題は感じないが、一面はできるだけ季節を感じるテーマがいい。

評価ポイント④

テキスト情報だけでなくビジュアル情報も掲載されている

→必要に応じて写真、図表、イラストなどが効果的に使われている etc

◇ビジュアル化への配慮は感じる。

◇本文一段分のスペースを超えて写真やイラストを掲載していないのでインパクトが弱く、平板な印象がある。

評価ポイント⑤

適切なテーマである

→地域性、社会性、話題性のあるテーマが取り上げられている etc

◇一面は、ワンテーマで子どもたちが中面を開きたくなるような企画で構成したい。

◇目を引きつける一枚写真で組むくらいの思い切りが必要。

評価ポイント⑥

多角的、多面的な構成になっている

→解説、インタビュー、Q & A、データ、ビジュアル情報など、さまざまな記事形態による編集がされている etc

◇Q & Aなどは、分かりやすく面白いが、半分くらいは武蔵野市にひきつけたテーマを選んで掲載するようにしたい。

(2) 行政記事（「ニュースフラッシュ」など）

【評価3】

評価ポイント

武蔵野市の施策関連情報が、タイムリーに分かりやすく掲載されている

◇「ニュースフラッシュ」などは、文章で説明して写真を添えるのではなく、写真と見出しで目を引き付け、説明は写真のネームで十分と思う。

(3) 暮らしの記事（「イベントガイド」「むか～しむかしの むさしのばなし」など）

【評価3】

評価ポイント①

生活情報、イベント情報などが、タイムリーに分かりやすく掲載されている

◇帰ってきたら手を必ず洗い、うがいをする、栄養のバランスはなぜ大切なのか、といったように、家庭や学校で必ずしもカバーしきれていない情報をイラストなどでフォローする方向も考えられるの

ではないだろうか。

評価ポイント②

地域特性等に応じた独自の記事がある

→地域の歴史や文化、自然等に関連した連載やコラムがある et

- ◇「イベントガイド」というタイトルは大人向きで、写真などが掲載されていない点も気になった。
- ◇「むか～しむかしの むさしのぼなし」は上手くまとめられているが、読まれるかどうかは別問題なので、子どもたち向けの身近な情報を地域から掘り起こしたほうがよいように感じる。

(4) その他の記事（「なんでも相談室」「みんなの広場」など）

【評価3】

評価ポイント①

エンターテインメント性がある

→クイズやマンガ、料理記事、人物紹介記事などがある etc

- ◇クイズはいいと思う。このように紙面に参加させる仕組みがいい。

評価ポイント②

子ども参加型（双方向型）の要素がある

→子どもとのコミュニケーション、広聴的要素がある etc

- ◇実現するのは大変かもしれないが、小学生・中学生の子ども記者が自分たちでレポートするような方向も検討したい。

2 文章・表記

(1) 文章・見出し

【評価3.5】

評価ポイント①

子どもにとって分かりやすい文章である

→子ども向けにリライトするなど、低年齢層でも理解できる文章になっている etc

- ◇本文は、話体を取り入れ、分かりやすくまとまっていると思う。

評価ポイント②

適切な見出しが付いている

→記事の案内役を果たす見出しやタイトルがきちんと付けられている etc

- ◇タイトル、見出しに、子どもたちの興味を引く工夫がほしい。

評価ポイント③

子どもにも分かりやすい解説や説明がされている

→専門用語などに注釈が付いていたたり、かみくだいた表現に置き換えられたりしている etc

- ◇平易にまとめられ、問題は感じない。

(2) 表記

【評価4】

評価ポイント

正しい用字用語が使われている

→常用漢字以外の漢字を使っていない、ルビを振っている、表記が統一されている etc

◇用字用語やルビなど、配慮されている。

3 デザイン・レイアウト

(1) 全体デザイン・レイアウト

【評価3】

評価ポイント①

読みやすい

→見出しの書体や大きさが工夫されている etc

◇可読性は確保されているが、みんな同じようなまとめ方、レイアウトなので、メリハリに欠ける。

評価ポイント②

見やすい

→分かりやすく整理されたレイアウトである

→紙面全体のデザイン・テイストが統一されている etc

◇問題ないと思うが、書体、文字の大きさをもう少し整えたほうがベター。

評価ポイント③

きれい

→ビジュアル情報（写真や図表、イラスト、マップなど）のクオリティが高い

→カラーを上手に使っている etc

◇子どもなので多少賑やかに色を使ってもいいと思うが、全体的な色彩計画をもとに、色づかい（トーン）をコーディネートすればなおいい。

(2) 表紙

【評価3】

評価ポイント①

子どもを引き付けるトップページになっている

→一目で内容が分かるデザインになっている

→ビジュアル情報やコピー等にインパクトがある etc

◇情報を盛り込み過ぎているために、表紙の「つかみ」がないような気がする。

◇のびのび、大らかなイメージがほしい。

評価ポイント②

タイトル周りが整理されている、デザインがいい

→タイトル・ロゴや関連情報（発行年月、人口・世帯数、目次等）がバランスよく配置されている etc

◇「むさしの」のロゴデザインは悪くないと思う。

◇大人向けと同じように人口データを入れたり、ポスターや絵を入れたり、にぎやかすぎて、逆に焦点が定まらない。

◇シンプルで力強い表紙を。

4 その他

(1) メディアミックス

【評価3】

評価ポイント

他の媒体との連動性がある

→ホームページ等への誘導やメディアミックスがある etc

◇現在の情報環境を考えると、武蔵野市のホームページへの誘導を紙面でも行うべきではないだろうか。

◇富山県のホームページにある「キッズページ」のように、ホームページを活用した広報をもっと強化したい。

(2) 発行形態

【評価3】

評価ポイント

発行形態が適切である

→発行頻度、仕様（判型、紙質等）、編集体制などが妥当である

◇現在の発行形態に疑問は感じないが、紙媒体は掲載する情報量に限界がある。

◇紙媒体は必要なものだが、これをフックにして、ホームページとの相互閲覧につなげていく仕組みを考えたい。

5 リニューアルに向けた方向性の提案

◇子ども向け媒体を発行されていることは、自治体としての先進性を感じる。

◇さまざまなメディアがある中で、どのような情報を発信するのか、学校教育との差別化も含め、再検討したほうがいい。例えば、地域の人をつながり、環境問題、高齢者への優しいまなざしを育てていくといった情報など。

◇リニューアルの方向性としては、以下のことが考えられる。

一面……………中を開くきっかけとなるようなタイムリーな情報で掲載し、紙面をすっきりさせ、インパクトをもたせる。

中面見開き……見開きの広い紙面を生かし、テーマ記事で構成する。イラスト写真等も大きく掲載する。

四面……………情報コーナー、クイズなど細かい情報を掲載する。

IV 武蔵野市議会だより

吉村 潔 委員

議会報「武蔵野市議会だより」の評価対象は、322号から326号の5号分である。全体を閲読した後、下記の評価項目について、5点満点で評価するとともに、それぞれの項目の良い点、悪い点についてコメントを付した。

【評価結果一覧】

評価項目		評価
1 企画・構成	(1) 全体企画・構成	4
	(2) 議会記事	4
	(3) その他の記事	3.5
2 文章・表記	(1) 文章	3.5
	(2) 表記	4
	(3) 見出し	3.5
3 デザイン・レイアウト	(1) 全体デザイン・レイアウト	4
	(2) 表紙	3.5
4 その他	(1) メディアミックス	3
	(2) 発行形態	4

1 企画・構成

(1) 全体企画・構成

【評価4】

評価ポイント①

行政が伝えたい情報、市民が知りたい情報が掲載されている
→必要にして十分な情報（質・量ともに）が提供されている etc

◇情報を的確に、分かりやすくまとめていて、議会広報紙として水準が高い。

評価ポイント②

情報の分類・整理（台割り、ページ構成等）がされている
→市民（読者）サイドの視点で情報がまとめられている etc

◇編集の自由度が少ない中で、ページ構成にメリハリを感じる。

評価ポイント③

情報の内容がタイムリーである
→発行時期、発行頻度に合った情報が掲載されている etc

◇市政方針、一般質問、決算等、発行のタイミングに合わせ、うまくまとめている。

評価ポイント④

テキスト情報だけでなくビジュアル情報も掲載されている
→必要に応じて写真、図表、イラストなどが効果的に使われている etc

◇写真取材をきちんと行い、生硬になりがちな紙面をバランスよく構成している。

評価ポイント⑤

市民参加型（双方向型）の要素がある
→市民とのコミュニケーション、広聴的要素がある etc

◇難しい要因もあるだろうが、「子ども議会」的なものだけではない切り口を考え、先鞭をつけていただきたい。

(2) 議会記事

【評価4】

評価ポイント①

適切な情報である
→議会の施策関連情報が、タイムリーに分かりやすく掲載されている etc

◇当然のことながら、議会報告は適切になされている。
◇一般質問は、議員の質問ではあるが、生活者の視点を感じる。

評価ポイント②

多角的、多面的な構成になっている
→解説、インタビュー、Q & A、データ、ビジュアル情報など、さまざまな記事形態による編集がされている etc

◇322号を見ても分かるように、情報に応じた多角的な紙面構成がなされている。

評価ポイント③

行政の視点、市民の視点のバランスのとれた企画・構成になっている
→一方的な論調ではなく、問題共有型の配慮、編集がされている etc

◇掲載内容を考えると、まずわかりやすく、端的に伝えることであり、そうした配慮がなされている。

(3) その他の記事

【評価3.5】

評価ポイント①

地域特性等に応じた独自の記事がある
→地域の歴史や文化、自然等に関連した連載やコラムがある etc

◇できれば、「With you」のようなコーナーを毎号、掲載してほしい。

2 文章・表記

(1) 文章

【評価 3.5】

評価ポイント①

分かりやすい文章である

→内部資料をそのまま掲載するのではなく、市民向けにリライトするなど、低年齢層でも理解できる文章になっている etc

◇全体としてはよいが、まだワンセンテンスが長い文章がある。できるだけ短文化を。

評価ポイント②

分かりやすい解説や説明がされている

→専門用語などに注釈が付いていたり、かみくだいた表現に置き換えられたりしている etc

◇（ ）内などに解説があり、配慮されているほうだ。

◇しかし、例えば325号の決算審査概要の民生費の中に出てくる「あそべえ」は、これだけ読むと何のことかよく分からない。「地域子ども館」の名称であることの説明は必要ではないか。

(2) 表記

【評価 4】

評価ポイント

正しい用字用語が使われている

→常用漢字以外の漢字を使っていない、ルビを振っている、表記が統一されている etc

◇表記に関しては、及第点と思う。

◇編集側からのコメント「このほか～質問がありました」との表記は「ですます体」で差別化しているが、頭に*印をつけるなど、明確に差をつけたほうがいい。

(3) 見出し

【評価 3.5】

評価ポイント

適切な見出しが付いている

→記事の案内役を果たす見出しやタイトルがきちんと付けられている etc

◇文末の言葉が重ならないように工夫しているのが分かる。

◇全体的に漢字が多くなりがちなので、どこかで平仮名のやさしい表現を取り入れたい。

◇「伺う」という表記はできるだけ少なくしたい。

3 デザイン・レイアウト

(1) 全体デザイン・レイアウト

【評価4】

評価ポイント①

読みやすい

→高齢者にも可読性のいい文字組みになっている

→見出しの書体や大きさが工夫されている etc

◇基本的なレイアウトフォーマットがきちんとつくられているので、可読性はよい。

◇欲を言えば、もう少し、改行を増やしてほしい。

評価ポイント②

見やすい

→分かりやすく整理されたレイアウトである

→紙面全体のデザイン・テイストが統一されている etc

◇縦組み、横組みの使い分けなど、経験を感じる。

評価ポイント③

きれい

→ビジュアル情報（写真や図表、イラスト、マップなど）のクオリティーが高い

→カラーを上手に使っている etc

◇議会報の中では、ビジュアルなレイアウトがなされているほうだと思う。

◇写真は入稿前か色校正時にもっと補正したほうがいい。

◇肌色の補正、写真の濁りなどに注意してほしい。

(2) 表紙

【評価3.5】

評価ポイント①

読者を引き付けるトップページになっている

→一目で内容が分かるデザインになっている

→ビジュアル情報やコピー等にインパクトがある etc

◇「議会だより」のロゴデザイン、下のフォトギャラリーはいいが、テキスト部分が「市議会定例会」や漢字の多い表現が目立つため、生硬な印象がある。

◇目立つタイトルに「語りかけ」の言葉を選ぶなど、多少見直せば、さらによくなると思う。

評価ポイント②

タイトル周りが整理されている、デザインがいい

→タイトル・ロゴや関連情報（発行年月、人口・世帯数、目次等）がバランスよく配置されている etc

◇目次を含め、まとまりがいい。

◇「議会だより」のグリーンをもっと明るめにするといった色づかひの工夫で印象が変わってくる。

4 その他

(1) メディアミックス

【評価3】

評価ポイント

他の媒体との連動性がある

→ホームページ等への誘導やメディアミックスがある etc

◇324号でWeb議会中継をPRするなど、配慮されているが、「武蔵野市議会 → 検索」といった、手早い利用を促進したい。

◇ホームページは文字や表組みが多い。

◇市民が議会に関心をもつようなコンテンツがほしい。

(2) 発行形態

【評価4】

評価ポイント

発行形態が適切である

→発行頻度、仕様（判型、紙質等）、編集体制などが妥当である

◇現状に特に大きな問題は感じない。

5 リニューアルに向けた方向性の提案

◇フォトギャラリーは、表紙写真を兼ねた好企画だが、きれいな風景写真や花だけでなく、子どもたちや地域の人が登場すると親近感が増すだろう。

◇一面の硬さに関しては、例えば323号の議長、副議長の選出に関して、「私たちは、全力をつくします」といった表現にし、二人が笑顔で並んだ写真を少し大きめに掲載するという方向性もあるのではないだろうか。

◇モットーの言葉を添え、人柄を感じさせるなど、議会と市民の親近感を醸成したい。

V 武蔵野市ホームページ

白旗 保則 委員

武蔵野市ホームページは、2008年6月現在の内容を評価対象とした。ホームページ全体を閲覧した後、下記の評価項目について、5点満点で評価するとともに、それぞれの項目の良い点、悪い点についてコメントを付した。

【評価結果一覧】

評価項目	評価
1 トップページ	4
2 構成	3
3 表現	3
4 検索性・操作性	4
5 速報性	4
6 実用性	3
7 双方向性	2
8 コンテンツ	3
9 グラフィック・デザイン	3
10 ユニバーサル・デザイン	2

コンテンツ：ホームページに掲載されている内容

ユニバーサル・デザイン：年齢や障害の有無などにかかわらず、多くの人が利用可能なデザイン

1 トップページ

【評価4】

評価ポイント

サイトの全体像が把握できるつくりになっている
情報の整理・分類がきちんとされている
検索機能がある（検索入力ボックス、50音別検索など）
インターフェース・デザイン（トップページ画面のデザイン）がよい etc

（1）トップページは見やすい

- ◇文字中心ではあるが、アクセントとしてのアイコンが配置されていたり、行間に余裕を持たせていたり、見やすい工夫が随所にちりばめられていて高く評価できる。
- ◇情報を探しに来た利用者に対しては使いやすいトップページである。
- ◇広報という観点からは、探しに来た利用者に対して市として伝えるべき情報（市の取り組み、市の魅力、市政トピックスなど）を提供するような仕掛けがあってもいいのではないかな。

参考：農林水産省「政策クローズアップ」
静岡県「県庁トレンド」

<http://www.maff.go.jp/>

<http://www.pref.shizuoka.jp/>

(2) 分類は分かりやすい

◇「くらしのガイド」「引越しガイド」「業者の方」など利用者を想定し分かりやすい分類に構成されている。

(3) まぎらわしい画像リンクをなくす

◇「市民活動情報サイト」や「市議会」など画像にリンクが設定してあるが、ボタンなどの立体表現になっていないため、カーソルを合わせないとリンクということが分からない。立体表現など画像でリンクと分かる表現もしくは、文字リンクで「→詳細」など、そこからリンクがあることを示す改善が必要である。

(4) 組織から探す経路も確保

◇利用者（事業者・行政関係者など）によっては、組織から探すことがある。
◇「市の組織」として提供されているが、情報を探す視点からすると「くらしのガイド」とある程度同じレベルで「組織から探す」入り口を設けてもいいのではないかと。場所としては「業者の方」の下あたりで十分である。

2 構成

【評価3】

評価ポイント

利用者の立場に立った構成・設計になっている

行政が伝えたい情報、市民等が知りたい情報がきちんと掲載されている etc

(1) 分かりやすい分類を

◇「くらしのガイド」「引越しガイド」「業者の方」など利用者を想定し分かりやすい分類に構成されている。
◇下層ページに進んだ際に、関連する「よくある質問」や「お知らせ」などが表示され、情報提供に工夫されている点は高く評価できる。
◇一部さらに工夫が必要な部分もある。例えば、「引越しガイド」のページからは、「よくある質問」で引越しに関する項目として掲載されている「転入時の予防接種」や「クリーンセンターへのダンボールの持込」など関連する情報への誘導がない。下層ページと同様にインデックスページにも関連する情報を掲載してはどうか。

例：引越しガイド	http://www.city.musashino.lg.jp/cms/life_event/index.html
転入時の予防接種	http://www.city.musashino.lg.jp/cms/faq/00/00/12/00001205.html
クリーンセンターへのダンボールの持込	http://www.city.musashino.lg.jp/cms/faq/00/00/18/00001851.html

(2) 主な対象者はだれか、その対象者が必要としている情報は何かを考える

◇人口統計などから推測すると、大学生～40歳までの市民が多く、大学生の入学・卒業時の入れ替わり、年齢の若い世帯の引越しに対するニーズが高く、それに対応すべき「引越しガイド」や「くらしのガイド」>子ども」が設けられているのだらうと思う。仮にそのような主な対象者が明確であれば、さらにその対象者に特化した情報を集める工夫があってもいいのではないかと。

参考例：仙台市「引越しガイド」 <http://www.city.sendai.jp/soumu/kouhou/move/>
三鷹市「引越し時の総合情報」 <http://www.city.mitaka.tokyo.jp/a014/p003/t00300023.html>

3 表現

【評価3】

評価ポイント

分かりやすい文章・表記になっている
分かりやすい解説や説明がされている etc

(1) 専門用語や外来語には説明を

- ◇全体として表現は利用者の立場を考えたものが多い。
- ◇一部専門用語や外来語の説明が掲載されていないページがあるので、今後改善してほしい。

例：「在宅サービス(福祉公社)」のソーシャルワーカーについて

<http://www.city.musashino.lg.jp/cms/guide/00/00/02/00000200.html>

※説明がされていない

参考例：羽曳野市「コミュニティソーシャルワーカーの配置について」

<http://www.city.habikino.lg.jp/hp/menu000002500/hpg000002467.htm>

(2) 利用頻度の高い情報はPDFではなくHTMLで

- ◇利用頻度が高い情報でかつレイアウトが複雑でないものでもPDF (Portable Document Format : レイアウトソフトなどで作成した文書を電子的に配布することができ、相手のコンピュータの機種や環境によらず、オリジナルのイメージをかなりの程度正確に再生することができる電子文書の方式) のまま掲載されているケースが見受けられる。レイアウトが複雑でない場合、HTML (Hyper Text Markup Language : ホームページを作成するための言語・方式) にすることは簡単にできる。利用者の利便性を考慮して極力HTMLにて掲載してほしい。

例：市役所の組織と仕事内容>各課のダイヤルイン番号と主な業務内容

<http://www.city.musashino.lg.jp/cms/guide/00/00/05/archive/576-1.pdf>

4 検索性・操作性

【評価4】

評価ポイント

必要な情報にすぐにたどり着ける
ナビゲーション(ホームページの行き先表示、道しるべ)の工夫がされていて、使い勝手がいい
表示時間が早い etc

(1) ヘッダ及びグローバルナビゲーションは統一されている

- ◇基本的には共通のヘッダ(ページの上部に共通で配置されている武蔵野市のイラスト部分)及びグローバルナビゲーション(ホームページ全体を見渡せ、主要ページに移動できるリンクをまとめたもの)が統一されて配置されている。

◇「武蔵野市ごみ対策分別ホームページ」など一部は未対応である。いずれ対応する予定と思われるが、早期の対応を期待したい。

(2) 末端ページからの移動はいい

◇「パンくずリスト（トップページから現在表示しているページまでの階層を示したリスト）」「よくある質問」「お知らせ」など末端ページには、別の情報に進むための道しるべが複数用意されている。これにより、外部の検索エンジン（Yahoo!、Googleなど）から末端ページに直接たどり着いた場合でも別の情報にすぐ進むことができるため便利である。

(3) 検索エンジンはいい

◇検索エンジンは、入力されたキーワードに近いページを表示してくれるので、探しやすい。

(4) 「よく見られるページ」の設定を

◇利用頻度が高いがかなり深い下層に存在するページに早くたどり着ける手法として、トップページに「よく見られるページ」リストを設ける自治体が徐々に増えてきている。利用頻度が高いページをトップページからダイレクトに導くことにより利便性が高められる。また、他の利用者の動向を把握することにも役立つので一考してはどうか。

◇他の自治体では、「よく見られるページ」「アクセスランキング」などとして掲載されている。

参考例：寝屋川市「よく見られるページ」 <http://www.city.neyagawa.osaka.jp/index/yokumiru.html>

上田市「アクセスランキング」 <http://www.city.ueda.nagano.jp/hp/best/index.html>

5 速報性

【評価4】

評価ポイント

頻繁に更新されている

常に新しい情報が掲載されている etc

(1) 新着情報の更新は頻度が高い

◇新着情報としての「お知らせ」は、比較的頻度が高く更新されているようである。

◇一覧もカテゴリー別に絞り込んで表示させることができるため便利である。

(2) 緊急対応の内容はトップページへの表示を

◇「防災安全情報」は、トップページから一度「武蔵野市防災安全センターWEB」に進まないとも内容が把握できない。「武蔵野市防災安全センターWEB」が別システムとして稼働しているのでシステムとして可能かどうかは不明であるが、可能であれば、トップページに必要な情報を表示できる工夫があるとよい。

6 実用性

【評価3】

評価ポイント

電子自治体としての窓口機能を有している
各種申請書のダウンロードや公共施設の予約などができる etc

(1) 電子行政サービスの内容一覧を

- ◇トップページからは、「申請書ダウンロード」しか掲載されていない。
- ◇「図書館蔵書検索」や「施設予約」など、実際には機能として用意されているものでも、別組織のページからのリンクになってしまっているためトップページからは探さないと利用できない。
- ◇トップページからリンクを張るだけで解決できるので、電子行政サービスの内容一覧をトップページに設けてもいいのではないかと。

7 双方向性

【評価3】

評価ポイント

ツ－ウエイ・コミュニケーション（市民と市との双方向での情報交換）機能が活かされている
掲示板や会議室などで市民等と行政の、市民相互の意見・情報交換がされている etc

(1) 市民との情報交換の場は用意されているが、より広聴に注力を

- ◇「武蔵野市市民活動情報サイト」として、市民と行政の情報交換の場が提供されている。
- ◇ホームページ内では頻繁に情報が公開されていて、高く評価できる。
- ◇一見すると市役所のホームページから別のホームページに移動してしまい、市が運営するホームページとは分かりにくい。トップページのどこかに「このホームページは、市民と行政の情報交換の場として武蔵野市が運営する……」などのホームページの目的や所有者を明記したほうがよいのではないかと。
- ◇パブリックコメント（市の計画や条例などを策定していく中で、その計画などの素案を公表し、広く市民から意見・要望を募集し、それらを考慮して決定していくもの）については、一部下層ページには散在するものの全体を包括するページが用意されていない。今後はアンケートを新設し、パブリックコメントを全庁でまとめるページを作るなどして「広聴」の充実を図ってはどうかと。

8 コンテンツ

【評価3】

評価ポイント

コンテンツにオリジナリティーがある
楽しめる要素がある
外国語ページなども丁寧に作られている
携帯版やメールマガジンなどでも情報発信を行っている etc

(1) 主な対象者に合った内容の充実を

- ◇人口統計などから推測すると、大学生～40歳までの市民が多く、その対象者を意識してコンテンツが設けられているのだろうと思う。仮にそのように主な対象者が明確であれば、さらにその対象者に特

化したコンテンツを充実してはどうか。

- ◇「吉祥寺学生マップ」や「武蔵野で快適に暮らす」など対象者の知りたいことに絞り込んだコンテンツを充実していただきたい。

(2) ブロードバンドコンテンツ用の入り口を用意

※ブロードバンドコンテンツとは音楽や映像といった大容量の情報。ブロードバンドとは高速回線通信のこと。

- ◇「広報ニュース」の下に「むさしのシティニュース」が用意されているがトップページを見ただけではここに動画コンテンツがあるとは分かりにくい。別に動画だけのページを設けたり、ラベリング(名前付け)を工夫したりするなど、普段は頻繁に利用しない市民への配慮が必要なのではないか。
- ◇現在のホームページは文字と静止画が中心で、どちらかと言えば印刷物と同じような情報提供になっている。武蔵野市のブロードバンド普及世帯率はかなり高いと思われるので、理解を促すコンテンツとしてブロードバンドを活用して動画を掲載することを検討してもいいのでは。それにより、広報番組をより多くの利用者に見てもらえる機会にもなるのではないか。ただし、その場合インターネットでの公開について制作会社との契約の確認が必要ではある。

例：高槻市：テレビ局 <http://www.city.takatsuki.osaka.jp/multimedia/index.html>

宮代町：宮代30秒ニュース

<http://www.town.miyashiro.saitama.jp/WWW/movieb.nsf/526dc20141505c9649256b4a000f204b/3deccd7d4a516d0449256b4a001a5ec0?OpenDocument>

9 グラフィック・デザイン

【評価3】

評価ポイント

見やすい、分かりやすい、きれい
デザイン・テイストが統一されている etc

(1) デザインはシンプル

- ◇トップページを含め背景が白で、全体が青と緑が基調できれいにまとめられている。
- ◇文字色が黒、文字のリンク色がブルーでまとめられているので見やすい。
- ◇トップページの項目でも指摘したが、立体感のない画像はそこにリンクが存在していることを認識できないケースもあるので改善していただきたい。

(2) 主となる閲覧環境をどう想定するか

- ◇ブロードバンドかナローバンド(速度が遅い通信回線)か、あるいはモニターの解像度の基本をどの値にするのかは、武蔵野市ホームページ利用者の動向により判断すべきことと思うが、地域特性としては都市部であるのでブロードバンド利用者が全国平均より高いのではないかと推測できる。
- ◇モニター解像度の基本に関しても、Yahoo!など主要サイトの動向をみても左右幅1024ピクセル(ピクセルは画像サイズの単位、現在販売されているパソコンのほとんどが左右幅1024ピクセルで出荷されている。つまり左右幅1024ピクセルとはパソコン画面の標準的な左右幅サイズのこと)を基準にしているサイトも数多く存在しているので、それらを総合的に判断し、主となる閲覧環境を想定し、それに合わせてデザインを変更してもいいのではないか。
- ◇ブロードバンド環境であれば、もっとふんだんに写真を使ったり、Flash(イラストや写真を動画のように演出できるソフト)での表現も可能になったりする。

◇左右幅1024ピクセルを十分使うことにより、天地の短いホームページの実現も可能である。

10 ユニバーサル・デザイン

【評価3】

評価ポイント

JIS規格 (X8341-3) に準拠している etc

(1) より高いレベルでJIS X 8341-3に準拠を

※JIS X 8341-3とは、高齢者や障害者も含めたすべての人が見やすくアクセスしやすいホームページ制作をしていかなければいけない事項の指針として規定された日本工業規格のこと

- ◇アクセシビリティ（高齢者や障害者も含めたすべての人が使いやすいかどうか）チェッカーで確認すると準拠していない箇所がいくつか存在する。今回のリニューアルを機に、より高いレベルでの準拠したページに変更していただきたい。
- ◇エラーは背景色と文字色のコントラストが足りない、あるいは別ウィンドウを開いてリンク先ページを表示している点のエラーなので、簡単な見直しやCMS（Content Management System：ホームページのテキストや画像、レイアウト情報などを一元的に管理するシステム）を利用している場合であればテンプレートとスタイルシート（ホームページ上の文字のサイズ、色、位置など個別に指定する情報）の修正で対応できると思われる。
- ◇機種依存文字（「①」「Ⅱ」など、パソコンの種類によっては読むことのできない文字）などを使用しているケースがあるのでHTMLの記述のみならず日本語の表記にも配慮していただきたい。

参考：「WebInspector」によるアクセシビリティの診断結果

トップページ

<http://www.city.musashino.lg.jp/index.html>

は問題点が26箇所

トップページ > 健康・福祉 > 障害のある方 > 手帳 > 身体障害者手帳

<http://www.city.musashino.lg.jp/cms/guide/00/00/00/00000056.html>

は問題点が22箇所

機種依存文字が存在するページの例

<http://www.city.musashino.lg.jp/section/05020gomitaisaku/info/oshirase.html>

(2) 文書の構造化を

- ◇JIS X 8341-3には、文書の構造化（見出し、リストなど）も項目として挙げられている。
- ◇現在のページの中には正しく構造化されていないページがいくつも存在する。
- ◇外部のアクセシビリティ評価機関の中には構造化を評価の対象にしている機関がある。音声ブラウザを利用して文章の中から見出しのみを読み上げて使うユーザーもいるので、下記の方法で構造化に取り組みられてはどうか。

① これから作成するページ

作成担当者に文書の構造化の重要性を教育し、運用でカバーする。

② リニューアルを行う際

業者委託または作成担当者の協力のもと、全ページを構造化する。

例：市民と市長のタウンミーティング開催について（画像１）

<http://www.city.musashino.lg.jp/cms/news/00/00/84/00008485.html>

見出しが、１から４まで順番に使われていない。１の次に４が指定されている。見出しを本来の見出しではなくレイアウトを指定する要素として考えているからではないか。

身体障害者手帳（画像２）

<http://www.city.musashino.lg.jp/cms/guide/00/00/00/00000056.html>

見出しが、１から４まで順番に使われていない。１の次に３が使われている。

参考：「JIS X 8341-3 5.2」

a) ウェブコンテンツは、見出し、段落、リストなどの要素を用いて文書の構造を規定しなければならない。

1 1 総論

（１）膨大な情報をうまくまとめている

◇まずは膨大な情報量を提供している点は高く評価したい。

◇「パンくずリスト」「よくある質問」「お知らせ」など末端ページには、別の情報に進むための道しるべが複数用意されていて大変便利である。

（２）主な対象者はだれか

◇主な対象者は実際の市の現状と照らし合わせ、利用者のニーズがどこにあるのかをアクセスログ（ホームページ訪問者に関するさまざまな記録）解析やアンケート、ユーザーテストなどを通じて把握してそれを今後のホームページの方向性として反映してはどうか。（ユーザーテストに関しては後述）

（３）アクセスログを解析し、利用者動向を把握

◇アクセスログを見る限り、「交通手段」「ごみ」「入札情報」などある程度利用者を想定できる情報が含まれている。まずはこれらが市の想定どおりなのかを判断いただきたい。

◇豊富なアクセスログ解析データが存在していると思うので、それらを解析し、市が想定している利用者に使われているのか、使われていないのか、まずは判断していただきたい。

◇アクセスログ解析は、ホームページをリニューアルする際の一つの判断基準となるので、より詳細なアクセスログの解析をお勧めする。

リニューアルする際の基準としてアクセスログを利用するポイント

- ① どの時間帯に利用されているのか（利用時間帯から利用者を想定）
- ② トップページからどこをクリックして次へ進んでいるのか
- ③ 詳細ページへの経路はトップページからなのか外部の検索エンジンからなのか
- ④ 外部の検索エンジンからはどのようなキーワードをもとに訪問されているか

（４）ホームページの広報

◇アクセス数を見る限り市民も利用しているが行政関係者や事業者がよく利用しているように思える。市民がより利用するようホームページそのものを広報し、市民に活用してもらうPRも必要なのではないか。

1.2 リニューアルに向けた方向性の提案

(1) より使いやすいサイトへの対応

① まぎらわしい画像リンク

◇「市民活動情報サイト」や「市議会」など画像にリンクが設定してあるが、ボタンなどの立体表現になっていないため、カーソルを合わせないとリンクということが分からない。立体表現など画像でリンクと分かる表現もしくは、文字リンクで「→詳細」など、そこからリンクがあることを示す改善が必要である。

② 組織から探す経路も確保

◇利用者（事業者・行政関係者など）によっては、組織から探すことがある。「市の組織」として提供されているが、情報を探す視点からすると「くらしのガイド」とある程度同じように「組織から探す」入り口を設けてもよいのではないかと。場所としては「業者の方」の下あたりで十分ではないかと。

③ 利用頻度の高い情報はPDFではなくHTMLで

◇利用頻度が高い情報でかつレイアウトが複雑でないものでもPDFのまま掲載されているケースが見受けられる。レイアウトが複雑でない場合、HTMLにすることは簡単にできるのでリニューアルの際にはHTMLにして掲載しなおしてほしい。

(2) 対象者を絞ることによる利便性の向上と内容の充実

① 主な対象者はだれか、その対象者が必要としている情報は何か

◇人口統計などから推測すると、大学生～40歳までの市民が多く、大学生の入学・卒業時の入れ替わり、年齢の若い世帯の引越しに対するニーズが高く、それに対応すべき「引越しガイド」や「くらしのガイド」>子ども」が設けられているのだろうと思う。仮にそのような主な対象者が明確であれば、さらにその対象者に特化した情報を集める工夫があってもいいのではないかと。

② 主な対象者に合った内容の充実

◇人口統計などから推測すると、大学生～40歳までの市民が多く、その対象者を意識してコンテンツが設けられているのだろうと思う。仮にそのように主な対象者が明確であれば、さらにその対象者に特化したコンテンツを充実してはどうか。「吉祥寺学生マップ」や「武蔵野で快適に暮らす」など対象者の知りたいことに絞り込んだコンテンツを充実してほしい。

(3) ブロードバンド時代に合わせたリニューアル

① 主となる閲覧環境をどう想定するか

◇武蔵野市は、ブロードバンド利用者が全国平均より高いのではないかと推測できる。モニター解像度の基本に関しては、Yahoo!など主要サイトの動向をみても左右幅1024ピクセルを基準にしているサイトも数多く存在している。それらを総合的に判断し、主となる閲覧環境を想定し、それに合わせてデザインを変更してもいいのではないかと。

◇ブロードバンド環境であれば、もっとふんだんに写真を使うこともFlashでの表現も可能となる。

◇左右幅1024ピクセルを十分使うことにより、天地の短いホームページの実現も可能である。

② 広聴

◇インターネットの媒体特性として「双方向性」がある。しかし、現在のホームページでは、その「双方向性」をうまく活用しているとは言いがたい。

◇「パブリックコメント」や「アンケート」はもちろん、市民同士のコミュニケーションにも利用でき

るので、ぜひ広聴ツールとしても積極的に活用していただきたい。

(4) 利用者ニーズを把握するためのユーザーテストやヒアリングを実施

① ユーザーテストの実施

- ◇全体として、「利用者のニーズを満たしていないのではないか」と感じた。
- ◇ホームページを作成して運営している視点からは分からない利用者の視点は、ユーザーテストを実施することで解決できる。ユーザーテストについては、総務省「みんなの公共サイト運用モデル」の中に「障害者・高齢者による評価手順」として紹介されているので参考にしてほしい。

参考：みんなの公共サイト運用モデル

http://www.soumu.go.jp/joho_tsusin/w_access/kanren04_jissen.html

② 有識者や市民へのヒアリング

- ◇インターネットモニターや広報モニターを利用して、市民の生の声を収集してリニューアルに生かしてはどうか。
- ◇有識者を加えることにより利用者と専門家の両方の視点から現在のホームページを分析できる。

参考：厚木市「インターネットモニター」

http://www2.city.atsugi.kanagawa.jp/jouhouit/netmonitor/18monitor/page_17571.html

中津川市「広報モニター」

<http://www.city.nakatsugawa.gifu.jp/news/001787.php>

③ 「特集」を組み、より効果的な広報を

- ◇利用者の興味ある話題を「特集」として定期的に更新し、幅広い層に武蔵野市の取り組みに対する理解を促すコンテンツを提供してはどうか。
- ◇ホームページ用に新規で作成できればベストであるが、既存の広報紙・誌や動画などの広報素材を再編集するだけでも十分魅力あるコンテンツになるのではないかな。

「特集」を組んで情報提供している例：

財務省／ピックアップ

<http://www.mof.go.jp/>

トップページに「ピックアップ」を設け「日本の財政を考える」、「大臣になった男」など興味深いコンテンツを提供している。

財団法人 沖縄観光コンベンションビューロー／特集一覧

<http://www.ocvb.or.jp/card/ja/0000000001.html>

(5) ホームページ見直しのポイント

ホームページを見直す際の主なポイントは以下の通り。

- ① ホームページで情報を発信する目的とターゲットをはっきりする
- ② アクセスログの解析などを通じて利用者動向を分析する
- ③ ②の結果を踏まえ、さらなるコンテンツの充実及びサイト構成、デザインなどに反映する。
- ④ 他の広報媒体やイベントなどリアルな行事と連動したホームページへの誘導策（ホームページの広報）を検討する
- ⑤ ユーザビリティ（使いやすさ）、アクセシビリティ（高齢者・障害者への配慮）、ファインダビリティ（探しやすさ）を十分考慮する

VI むさしのシティニュース

碓井 広義 委員

映像広報「むさしのシティニュース」の評価対象は、2月1日放送分、2月15日放送分の2回分である。それぞれの回を視聴した後、下記の評価項目について、5点満点で評価するとともに、それぞれの項目の良い点、悪い点についてコメントを付した。

【評価結果一覧】

評価項目	評価
1 全体評価	2
2 番組のタイトル	2
3 番組の情報	2
4 出演者	2
5 構成・表現力	2

1 全体評価

【評価2】

評価ポイント

- 内容の掘り下げはどうか
- 分かりやすい内容か
- 説得力はあるか
- 見る人の共感を得られる内容か etc

- ◇基本的には、「あるテーマについて行政側担当者の説明を聞く」というのがメインの番組である。「むさしのシティニュース」では、「担当者こそ最もよく知っている人間」であり、「その当人が説明するのが最善だ」という誤った認識に立っているように思える。確かに、専門家であるから、内容の掘り下げという点では他の追随を許さないかもしれない。しかし、番組という形で情報を伝える際の、分かりやすさや説得力、さらに見る人の共感を得られるかどうかという意味では、マイナスである。
- ◇担当者は、とにかく正確に、バランスよく、遺漏なく話そうとする。しかし、行政のプロではあっても、話すこと・伝えることのプロではない。同じ内容でも、話し方・伝え方によって、分かりやすかったり、その逆だったり、また説得力を持ったり、そうでなかったりする。
- ◇担当者には何の意識がなくても、視聴者（市民）の目には、尊大に見えたり、慇懃無礼に見えたり、上から見下しているように感じたりするものだ。話す内容だけでなく、話し方はもちろん、目線や表情など、画面から映し出されるすべてが、見る人にとっての印象を左右する。そのような点に十分注意して番組を制作してほしい。

2 番組のタイトル

【評価2】

評価ポイント

- よく内容を表すタイトルになっているか
- 視聴者を引き付けるタイトルになっているか etc

- ◇「むさしのシティニュース」というタイトル自体は、可もなく不可もない凡庸なものに見える。
- ◇この番組の内容は「ニュース」なのだろうか。ニュースという言葉に込められる「報道」や「即時

- 性」といったイメージとは合致していないように思える。
- ◇各回のサブタイトル「まちづくり条例制定に向けて」にもあまり工夫がみられない。
 - ◇タイトルに、市民が「ぜひ見てみたい」と思うような工夫がほしい。

3 番組の情報

【評価2】

評価ポイント①

- 文字情報（テロップ、フリップ）の量は適当か
- 取材先は適当か（場所・数）
- ナレーションは効果的か etc

- ◇2月1日放送の「武蔵野地域自由大学」についての特集では、スタジオに来た生涯学習スポーツ課の担当者が延々と説明しているが、その間、テロップもフリップもほとんど入らない。
- ◇「人気講座」を列挙するのであれば、講座名を書いた一覧表くらいは用意すべきだろう。
- ◇耳から入ってくる情報だけで、理解や共感にまで至ることは困難である。
- ◇文字情報はもちろんだが、この「自由大学」が行われている光景の写真やビデオを入れるなどの工夫が必要。
- ◇ひたすら人の顔を見せ続け、「説明」だけを聞かせるのは、番組の作りとして非常に不親切だ。
- ◇利用者のインタビューをただで、受講風景などの取材も行われていない。
- ◇ごみ処理のクリーンセンターの特集でも市長の話聞いているが、少しは「現場」のインサート映像も入れてほしい。
- ◇ナレーションに関しては、基本的に原稿の棒読みであり、人間味や「伝えよう」という熱意があまり感じられない。

4 出演者

【評価2】

評価ポイント

- キャスター、リポーターは番組にふさわしいか
- その他の出演者は番組にふさわしいか etc

- ◇キャスターについては、多くの問題がある。
- ◇視聴者（市民）に向かって「話す」のではなく、ひたすら原稿の「読み上げ」に終始している。だから、満面の笑顔であっても、言葉は丁寧であっても、視聴者（市民）は自分たちに向かって話しかけているとは思わないだろう。
- ◇キャスターが、スタジオで市の職員に話を聞く際にも、質問部分では、視線が手元の原稿に行ってしまう。相手の顔を見ていない。
- ◇「まちづくり条例」について職員から話を聞きながら、何度か相づちをうつ。その中で、彼女が「ふーん、なるほどねえ」と言っているが、友達同士の会話ではないのだから、後で制作側が編集段階でカットすべきである。
- ◇スタジオに来た市の職員に対して、「お招きしまして……」といった表現をしていることにも違和感がある。キャスターやリポーターが、番組に登場した職員や市長の話が終わった際に、「本日はお忙しいところ、ありがとうございます」とお礼の言葉を述べるのも、外部から招いたゲストならともかく、大いに気になるところだ。

評価ポイント

- 出だして、視聴者を引き付けているか
- 最後まで視聴者を引き付けているか
- 番組のテンポ・メリハリはいいか
- 構成全般についていいか
- 技術的な表現力（カメラワーク・編集・音楽効果）はどうか etc

- ◇キャスターの出だしのナレーションは単調な感じが拭えず、出だして、視聴者を引きつけているようには思えない。
- ◇行政情報が一方通行的に発信される内容では、「最後まで視聴者を引きつけているか」という点では疑問を感じる。
- ◇番組のテンポは一本調子であり、メリハリに乏しい。それは構成全般に起因するものでもある。
- ◇ゆるいスタジオ、臨場感もない取材VTRなど、改善すべき点は多い。
- ◇技術面は、この番組内容に見合ったごく普通のものである。むしろ、前述のようにキャスターやリポーター、いや市長や職員といった出演者に対する「演出」がどうなっているのか。段取りだけで、後はお任せになってはいないか。自動的に収録し、時間合わせだけで編集してはいないかが気になるところだ。

6 全体的な意見・感想

- ◇全体を見ての印象であるが、視聴者（市民）を意識しないで作られているように思える。
- ◇番組のキャスターである女性は、冒頭でははっきりと言っている。「市政の動きをお知らせする番組」だと。確かに中身はそのとおりだ。市役所からの、「今、こんなことをしています」「こういうイベントを行いました」という“お知らせ”だけで構成されている。登場するのも行政側の人間と情報のみだといっている。
- ◇市民が登場しているという印象はほとんどない。主役はあくまでも市役所であり、市長であり、担当職員であり、内容は「行政側が伝えたいこと」のみで作られている。
- ◇たまたま、その情報に興味・関心を持つ市民にとっては見るべきものかもしれないが、そうでない多くの市民にとっては、特に見る必要のない番組になっている。
- ◇市民に見てもらうためには、市民を意識した番組づくりが必要である。

7 リニューアルに向けた方向性の提案

- ◇全編が行政からの「お知らせ」「説明」「告知」「通達」となっている現在の内容を再検討すること。「市役所と市長・担当職員」が主役ではなく、「市民」が主役となるような内容にしていく。
- ◇具体的には、15分の番組のうち少なくとも12分は、「市役所の動き」ではなく、「市民と町の動き」を伝える内容にする。その部分は、情報番組風でも、紀行番組風でも、エンターテインメントの要素を入れたものでも結構である。
- ◇市民にとって、関心を持ったり、役に立ったり、楽しかったりする内容の「番組」にすることである。その上で、残りの3分の中で、市役所からの「お知らせ」を流せばいい。
- ◇「お知らせ」で、情報のすべてを語ろう、伝えようとしなくていいことが大事。
- ◇市役所のホームページに誘導するための「入り口」として考えるくらいで丁度いい。
- ◇まずは番組を見てもらい、番組自体をいい意味で楽しんでもらった上で、詳しい情報を入手できるホームページを見てもらおうように展開してほしい。

VII マイシティむさしの

碓井 広義 委員

音声広報「マイシティむさしの」の評価対象は、通常パターンと、ゲストトークパターンである。それぞれの回を聴取した後、下記の評価項目について、5点満点で評価するとともに、それぞれの項目の良い点、悪い点についてコメントを付した。

【評価結果一覧】

評価項目	評価
1 全体評価	2
2 番組のタイトル	2
3 出演者	3
4 構成・表現力	3

1 全体評価

【評価2】

評価ポイント

内容の掘り下げはどうか
分かりやすい内容か
説得力はあるか
聞く人の共感を得られる内容か etc

- ◇市政情報を伝える通常パターンでは、森林教室の募集、牧場体験の募集、子育て支援施設でのイベント、リサイクル、家族で農業体験、小児科医の話、こうのとり学級、タウンミーティング等々についての情報が、15分間ずっと読み上げられる。しかし、ラジオであるから、どのタイミングで、どんな情報が流れてくるのか、リスナー（市民）には皆目分らない。
- ◇登場する項目の中のいずれかに、興味・関心を持つであろう市民がいたとしても、その市民は自分がほしい情報がラジオから流れてくるまで、ひたすら聴き続けることになる。
- ◇「イベント名・内容・連絡先」の繰り返しで、「番組」にはなっていない。

2 番組のタイトル

【評価2】

評価ポイント

よく内容を表すタイトルになっているか
聴取者を引き付けるタイトルになっているか etc

- ◇「マイシティむさしの」は、武蔵野市に関するものなら、どんな内容でも収容できそうなタイトルだ。しかし、逆にいえば、タイトルから内容を知ること、推理することもできない。
- ◇リスナー（市民）を引きつけるようなものではない。

3 出演者

【評価3】

評価ポイント

- ナレーションは効果的か
- アナウンサー（司会）は番組にふさわしいか
- その他の出演者は番組にふさわしいか etc

- ◇それぞれに登場する男性のソフトな声には好感がもてる。
- ◇ゲストトークのない通常パターンの番組は、いかんせん情報の羅列であり、聞く気をそそられない。
- ◇ゲストトークパターンの番組に登場する女性は、手慣れた感じで担当職員にインタビューしている。「むさしのシティニュース」のキャスターとは違って、出演者である市の担当職員との「会話」になっている。

4 構成・表現力

【評価3】

評価ポイント

- 出だして、聴取者を引き付けているか
- 最後まで聴取者を引き付けているか
- 番組のテンポ・メリハリはいいか
- 構成全般についていいか
- 技術的な表現力（編集・音楽効果）はどうか etc

- ◇「むさしのシティニュース」と同様、この番組全体が市役所の「CM」もしくは「インフォマーシャル」のような印象を受ける。
- ◇普通、テレビやラジオで、「本編」がなく、まるごと全部がCMという番組はあり得ない。自分たちの「伝えたいこと」だけを、一方的に流していることになる。
- ◇ゲストトークパターンの番組のほうは、「むさしのシティニュース」に比べたらテンポもいいのだが、「聴取者を引き付ける」とか「メリハリ」とか「編集・音楽効果」とかといった工夫に乏しい。

5 全体的な意見・感想

- ◇通常パターンは課題が多いが、ゲストトークパターンのほうは番組の形になっている。
- ◇「暮らしに役立つ情報」という触れ込みではあるが、内容的には「認知症」に対する市の支援・対策について職員から「説明」を受けるだけで終わってしまっている。この件（認知症）に興味・関心のある人以外は、この番組を聴かないだろう。

6 リニューアルに向けた方向性の提案

- ◇「むさしのシティニュース」に対する提案と同様に、全体が、市からの「お知らせ」だけで成り立っているという、旧態依然たる広報番組の考え方から脱却すべきだろう。
- ◇「広報番組」は、今や多くの市町村において、行政からの単なる「お知らせ番組」などではない。
- ◇オリジナリティーのある、独自のコンセプトの「番組」として成立させつつ、行政側のメッセージ（お知らせや告知ではない）を市民に伝える「場」、さらに市民とのコミュニケーションの「場」として、リニューアルすることを提案したい。